

日本の伝統文化を披露

第26回白石市伝統芸能フェスティバル

7月8日、普段触れる機会の少ない伝統芸能や日本文化の魅力を、より身近に感じてもらうと、古典芸能伝承の館碧水園で「第26回白石市伝統芸能フェスティバル」が開催されました。白石市伝統芸能振興会の大槻恒夫会長は「白石市の伝統芸能をどのように継承していくかが課題ですが、今後も皆さんの協力を得ながら後継者を育て続けていきたいと思っています」とあいさつ。この日は碧水園で活動する伝統芸能愛好家たち10団体61人が参加し、長唄、尺八、箏曲、詩吟、平曲、日本舞踊、謡、神楽など、日ごろの練習の成果を披露していました。

来場者は「熱心に披露している人たちを見て日本の伝統文化を肌で感じる事ができました。次世代の人たちにも引き継いでほしいです」と話してくれました。碧水園では今後も茶会や各種講座を開催するなど、伝統芸能に触れ、親しんでもらえるように活動を続けていきます。



1_三味線と笛の音色にのせた長唄で開演しました 2_見事な太鼓と舞を披露する大町神楽継承会のみなさん 3_華やかな着物で優雅な日本舞踊を披露

人と食をつなぐ新たな取り組みが始動

みのりファクトリー開所式

7月3日、本市が福岡長袋地内に整備を進めている「しろいしサンパーク」に、6次産業化加工施設「みのりファクトリー」がオープンしました。同施設は、一般社団法人みのり（佐々木文彦代表理事）が地方創生推進交付金を活用して建設し、運営も同法人が行います。施設内には肉や野菜などの加工室を備え、地元で生産した農産物を加工し、付加価値を付け販売するほか、地産地消を考える学習会や交流イベントを企画するなど6次産業化を推進する施設となっています。また今後、隣接する敷地には地元食材を活用したレストランと研究開発棟を建設。本市の農業の活性化と6次産業化の拠点となる事が期待されます。

開所式で佐々木代表は、「仙南地域のすばらしい人材と食材を生かし、生産者とお客さま、加工業者が環となり、食材でつながる仕組み作りを進めていきたいです」と話していました。



1_旧シリウスの跡地に建設されたみのりファクトリー 2_開所式であいさつをする佐々木代表理事 3_施設内にある野菜・果物の加工室

社会人としての心構えを学ぶ

職業人によるマナー講座

6月22日、白石中学校で社会人としてのあいさつや言葉遣い、身だしなみなど実技を交えて学ぶ「マナー講座」を開催しました。この日は、講師を務めた仙南信用金庫人事部の職員から、同校2年生の生徒99人が実際にクラスメイトを相手に話し方や電話のかけ方、お辞儀の仕方などを教わりました。同校では毎年2年生が市内の病院や飲食店、幼稚園など職場体験を実施しており、生徒たちは職場体験に向けて真剣な表情で取り組んでいました。



▲クラスメイト相手に電話での応対を実践する生徒

自分の夢に向かって！

白川中学校で志教育講演会

7月13日、白川中学校で志教育講演会が行われました。この日は山田市長が講演を行い、全校生徒27人が参加。山田市長は講演で「夢を持ちその夢を実現することが人のためになるので、日々頑張ってください」とエールを送っていました。

参加した生徒は「私は保育士を目指しています。今日話を聞いて自分でできることを探し、夢を実現できるように頑張ります」と将来を思い描きながら話してくれました。



▲山田市長の講話に耳を傾ける生徒たち

念願の道路が完成！

白石沖西堀線で開通式

7月3日、白石駅前と国道113号を結ぶ都市計画道路「白石沖西堀線」の開通式を、白石駅前広場で行いました。開通式には地元住民など約80人が出席。山田市長は「この道路の開通で住民の利便性が向上します。また、観光客にとってもアクセスしやすくなり、これを市の発展につなげていきたいと思っています」とあいさつしました。これにより対面通行が可能となったため、一方通行や幅員の狭さなどの課題が解消され、駅前へのアクセスが向上しました。



▲幅員が広がった道路でテープカットをする関係者